

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年 4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 146人

② 数学 146人

③ 理科 146人

#### 5 留意事項

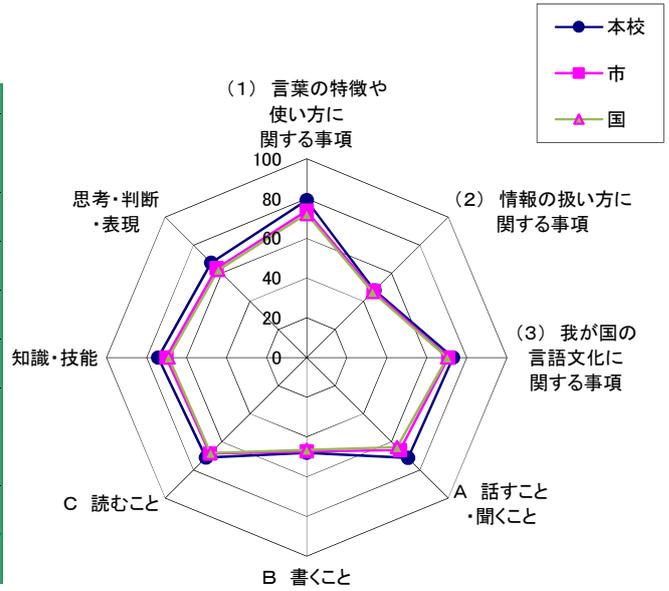
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立 旭 中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	79.2	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	47.9	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.1	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	71.5	65.9	63.9
	B 書くこと	47.9	47.3	46.5
	C 読むこと	71.2	68.3	67.9
観点	知識・技能	74.2	70.2	69.0
	思考・判断・表現	67.5	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

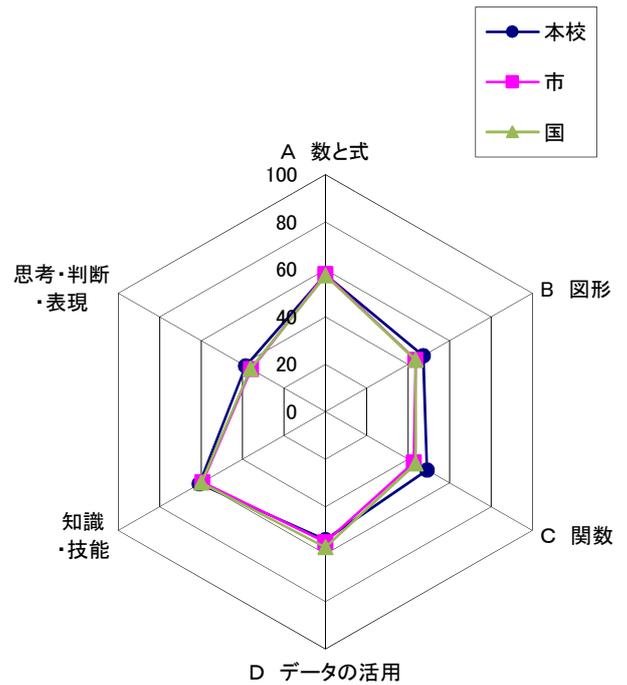
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	○正答率が市平均より、7.1ポイント高い。特に、「表現技法について理解する」問いの正答率は、市平均より4.3ポイント高い。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問いでは、15.7ポイントの無回答率が見られた。	・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるようにする。 ・意味の分からない語句を自分で調べる習慣をつけさせる。 ・文脈に即した漢字をきちんと使えるように、普段から漢字の書き取り練習に取り組ませる。
(2) 情報の扱いに関する事項	○正答率が市平均より0.6ポイント高い。 ●「ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用する」問いでは、正答率が5割を下回った。	・筆者の論の進め方を図式化し、主張と根拠をしっかりと押さえられるように指導する。 ・段落どうしの関係について考え、段落が果たす役割を捉えられるように全体から考えられるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」問いでは、9割以上の正答率だった。 ●「行書の特徴を理解する」問いの正答率は、市平均より4.2ポイント高いものの、5割を下回った。	・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解するために、行書の特徴をしっかりと捉えさせる。 ・古典の様々な作品に触れ、それぞれの作品の構成や表現の効果について、互いに意見を出し合う場面を設ける。
A 話すこと・聞くこと	○正答率が市平均より5.6ポイント高い。「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問いの正答率は、市平均より8.2ポイント高い。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」の無回答率は、9.6ポイントだった。	・今後も、様々な話題について話し合う機会を積極的に設ける。 ・体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を変えることができるように指導する。 ・相手の発言をしっかりと聞き、話の方向を捉えて自分の意見をまとめることができるようにする。
B 書くこと	○「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問いの正答率は、市平均より0.6ポイント高い。 ●「意見文の下書きに、情報を書き加える」問いの無回答率は、5.5ポイントだった。	・今後も文章を推敲させる学習活動の際には、目的や意図、伝える相手などを意識させながら行わせる。 ・知識や体験をもとに、構成を工夫して、内容を膨らませて文章を書く活動を行う。
C 読むこと	○正答率が市の平均より2.9ポイント高い。特に、「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、情景を基に捉える」問いでは、市平均より5.1ポイント高い。 ●「話の展開に沿って主人公の行動や心情を並び替える」問いの正答率は、7割未満にとどまった。	・登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているのかに注目して、書き手が伝えたい内容を客観的に捉えさせる学習活動を展開する。 ・人物や情景の効果的な描写に着目して、意識して作品を読み進めることができるようにする。

# 宇都宮市立 旭 中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国, 市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	57.8	58.0	57.4
	B 図形	47.3	43.6	43.6
	C 関数	49.1	42.7	43.6
	D データの活用	53.9	54.9	57.1
観点	知識・技能	60.8	59.3	59.9
	思考・判断・表現	38.5	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

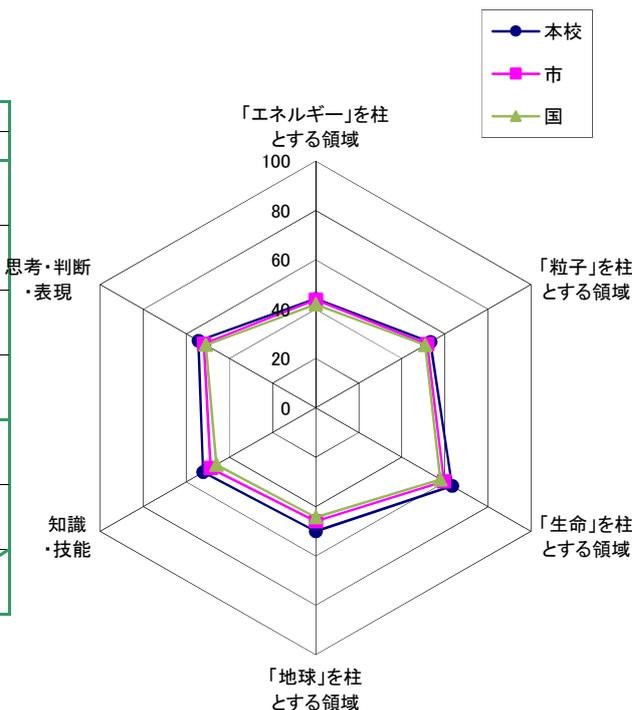
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>○領域における正答率が全国平均より0.4ポイント高い。また、問題場面における考察の対象を明確に捉える問題では、全国平均よりも5.7ポイント高い。</p> <p>●領域における正答率が市平均よりも0.2ポイント低い。また、自然数を素数の席であらわす問題では、正答率が全国平均より9.9ポイント低い。</p>	<p>・「数と式」領域における各単元の前にレディネステスト等を行い、状況に応じて前の学年の復習の時間を取ったりプリント学習などで補ったりする、</p> <p>・小テストを定期的に行い、知識や技能の定着を図る。</p>
B 図形	<p>○領域における正答率が全国平均や市平均より3.7ポイント高い。また、三角形の合同条件を問う問題では、全国平均よりも6.9ポイント高い。</p> <p>●筋道を立てて、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、無解答率が38.4%である。</p>	<p>・長さや角度を求めるといった、証明以外の問題でも、どのようにして解いたのかを考えさせる(あるいは記述させる)習慣をつけるようにする。</p> <p>・証明で全文を書くのが難しい場合、穴埋め問題なども利用し、少しずつ取り組めるようにしていく。</p>
C 関数	<p>○領域における正答率が全国平均より5.5ポイント、市平均よりも6.4ポイント高い。また、表から変化の割合を問う問う問題では、全国平均よりも3.2ポイント高い。</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、全国平均より1.6ポイント高いが、無解答率が26.0%である。</p>	<p>・表やグラフを書いたり、式を求めたりする技能を、プリント学習などを通して定着させる。</p> <p>・日常生活と関連する具体的な事象を課題として用い、解決方法を考えていく活動を取り入れる。</p>
D データの活用	<p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を問う問題では正答率が82.9%であり、ある程度の理解はできている。</p> <p>●領域における正答率が市平均よりも1.0ポイント、全国平均よりも3.2ポイント低い。また、箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題では、正答率が全国平均より5.7ポイント低い。</p>	<p>・ヒストグラムや箱ひげ図をかけるようになることと、そこからどのような傾向を読み取れるか考えさせる活動を行うようにする。</p> <p>・多数回の試行を伴う実験を実際に行い、その相対度数が求める確率になることを理解できるようにする。</p>

# 宇都宮市立 旭 中学校第3学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.2	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	53.3	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	63.3	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	50.0	45.9	44.3
観点	知識・技能	52.2	48.8	46.1
	思考・判断・表現	54.4	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○領域における正答率が市、国ともに0.4ポイント高い。また、知識技能を活用したり、グラフを作成する技能を問う問題に対して、市、国ともに10ポイント近く上回っている。 ●分析して解釈する問いや、問いに対して説明する問題の正答率が市よりも5ポイント近く下回っている。	・引き続き、知識技能を身に付けるための基本的な実験や、単元テストを中心に知識技能の定着を図る。 ・実験を中心に結果をもとに分析したり、解釈した意見を友人と共有し深める学習を進めていく。 ・本時の課題に対して自分なりの考えや説明をする振り返りの活動の時間を十分に確保し、次の授業で全体に返していくことで説明する能力を育てていく。
「粒子」を柱とする領域	○領域における正答率が市、国ともに2～3ポイント高い。また、実験計画を検討し、改善する問題の正答率が国よりも10ポイント近く上回っている。 ●知識・技能を活用して分析し解釈する問いに関して、異なる2つの単元において正答率が市よりも5ポイント近く下回っている。	・引き続き、知識技能を身に付けるための基本的な実験や、単元テストを中心に知識技能の定着を図る。 ・実験を中心に結果をもとに分析したり、解釈した意見を友人と共有し深める学習を進めていく。 ・実験結果をタブレットを用いて、別の班のものと比較、検討する活動を通して、自分なりに分析する学習活動を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	○領域における正答率が市、国ともに4～6ポイント高い。4領域の中で、本校生徒が最も得意としている。相違点、共通点を比較する問いの正答率が国よりも10ポイント近く上回っている。 ●分析をもとに、解釈する問いの正答率が市よりも10ポイント近く下回っている。	・引き続き、知識技能を身に付けるための基本的な実験や、単元テストを中心に知識技能の定着を図る。 ・実験を中心に結果をもとに分析したり、解釈した意見を友人と共有し深める学習を進めていく。 ・自分なりの分析結果をもとに、ほかの意見を聞いたり説明する活動を行い、再度自分の考えを再分析、再解釈する学習活動を取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	○領域における正答率が市、国ともに5ポイント高い。正答数も他の領域と比較しても多いことが伺える。知識技能を身に付け、働かせる問いに対する正答率が異なる2分野で市、国ともに10ポイント近く上回っている。 ●結果をもとに分析し、多面的に総合的に検討する問いの正答率が市よりも10ポイント下回っている。	・引き続き、知識技能を身に付けるための基本的な実験や、単元テストを中心に知識技能の定着を図る。 ・実験結果をタブレットを用いて、別の班のものと比較、検討する活動を通して、自分なりに分析する学習活動を取り入れていく。 ・自分なりの分析結果をもとに、ほかの意見を聞いたり説明する活動を行い、再度自分の考えを再分析、再解釈する学習活動を取り入れていく。

## 宇都宮市立 旭 中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定割合が80.5%と、全国・県より高い。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の肯定割合も91.2%と高い。これらのことは、3学年で進路を決定していく過程で、必要不可欠な要素になってくるので、生徒自身が将来へのビジョンを大切にしながら、自己実現を図る進路指導を進めていきたい。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定割合は95.9%であるが、全国・県に比べると低い値である。生徒たちがいじめに対してどのように捉えているのかを探りながら、学校生活全般において、いじめはいけないことだという認識をもつ働きかけをしていきたい。

●学校の授業以外の1日の学習時間は、平日で2時間以上が41.9%、休日で3時間以上が34.5%と全国・県平均より高い。しかし、この数値は、当該学年相応の学習時間には達していないと考える。自主学習への取組が習慣化され、日常生活の中にしっかりと定着されてきているので、「全くしない」という生徒は数名に留まっているが、ある意味では、生徒の学習への取組方がこれまでの単純な繰り返し学習のままで停滞していると推測される。今後は、自己の学習課題に応じた学習内容に発展できるように支援をしていきたい。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」という肯定割合は、54.7%で全国・県が半数に満たない中、地域や社会に関心のある生徒が過半数を占めている。しかし、「地域の行事に参加している」生徒は40.5%である。コロナ禍で、地域の行事がことごとく中止になり、そのような機会が失われる中、地域に対して貢献したい気持ちが軽減されることのないように、地域や社会との繋がりを意識する取組を仕掛けていきたい。

○PCやタブレットなどのICT機器に関して、昨年度の使用頻度は「ほぼ毎日」が72.3%と全国・県の20%前後に比べて、突出した結果であった。昨年度当初からタブレットを活用したICT授業の展開を全校体制で実践してきた結果が反映されている。今後は、学習の目的に合った活用方法を検討しながら、教員側の更なるICT機器の活用技能の向上を目指したい。

## 宇都宮市立 旭 中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	自主学習ノート(実施6年目)を使って、生徒自らが学習課題を考え、毎日1ページ程度取り組み、提出するよう指導する。	「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対する肯定的な回答割合が65.5%で、県平均より0.5ポイント、全国平均より7.0ポイント高い。  「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して、2時間以上と回答した割合が41.9%で、県平均より5.8ポイント、全国平均より6.7ポイント高い。